

「日々の理科」(第1879号) 2019-8,31
水彩画教室「木もれ日の道」
お茶の水女子大学附属小学校教諭
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員
田中 千尋 Chihiro Tanaka

木々の枝や葉の間から太陽光がもれて それが地面や路面に落ちたものが「木もれ日」です こういう道を自転車で走ると 顔に陽がばちばち当たります 初秋の朝に「木もれ日」を探しながら 自転車で走るのとはとても楽しいです



これが完成した絵です



1、葉の重なりは難しいです 最初に薄い緑(リーフ・グリーンにホリゾン・ブルーを混ぜる)を塗った上に、少しずつ濃い緑を重ねます



2、木々の重なりも難しいです 遠くの木ほど細く淡く描くのが良いと思います



3、森の奥は 木と木の間を暗くします 暗い部分は「シャドウ・グリーン」か それにブラックを混ぜたものを使用しました



4、道の一番奥は あえて明るいままにしました「この道の奥には何かがあるのかな」といった「期待感」を表現したかったのです



5、左側の路肩には 低い隆起(築堤)があります この立体感はなかなか表現が難しいです



6、主題の「木もれ日」は あまり慣れていません 現地でもっとよく観察して「それらしく」描く研究をしたいです